

■ 蘭ASML(日足)とMACDの動き 2026/10/13時点



■ 台湾TSMC(日足)とMACDの動き 2026/10/13時点



■ 米注目企業(AI・半導体関連)の決算発表予定

来週(10/19～10/23)

10/21 (引け後) : メタ・プラットフォームズ(META)、テスラ(TSLA)

10/22 (引け後) : ウェスタンデジタル(WDC)

再来週(10/26～10/30)

10/28 (引け後) : マイクロソフト(MSFT)、アマゾン(AMZN)、アルファベット(GOOG)

10/29 (引け後) : インテル(INTC)、サンディスク(SNDK)

11月第1週(11/2～11/6)

11/2 (引け後) : パランティア・テクノロジーズ (PLTR)

11/3 (引け後) : アドバンストマイクロデバイセズ (AMD)

11/4 (引け後) : 英アームHD(ARM)

■ AI相場の持続性をウォッチするための4つの視点

① 需要・期待感・成長

- 業績の成長、AI技術の進展
- 川上(AIインフラ構築)から
川下(AIインフラを活用したビジネス拡大)へ
- 競争激化と優位性の確保

② 物理的なリソース

- DC(データセンター)の用地確保
- 半導体チップ、メモリ、電力、冷却設備
- 需要増に沿ったペースで供給できるか

③ 「カネ(金)回り」

- 投資額に見合ったリターン
- AI投資の継続性
資金調達コストと収益のバランス
- 投資拡大による物価・金利上昇圧力

④ 環境変化と課題対応

- AIの暴走リスク、法整備、反AI運動
- 新たな問題・課題が浮上した時の対応力

■ 新技術がもたらす相場が終焉する「25%ルール」の経験則

< 「25%ルール」とは？ >

「革新的な新技術がもたらす相場は、その投資額が経済規模(GDP)の25%相当に達するまで米国経済はバブルを吸収し得る」という経験則

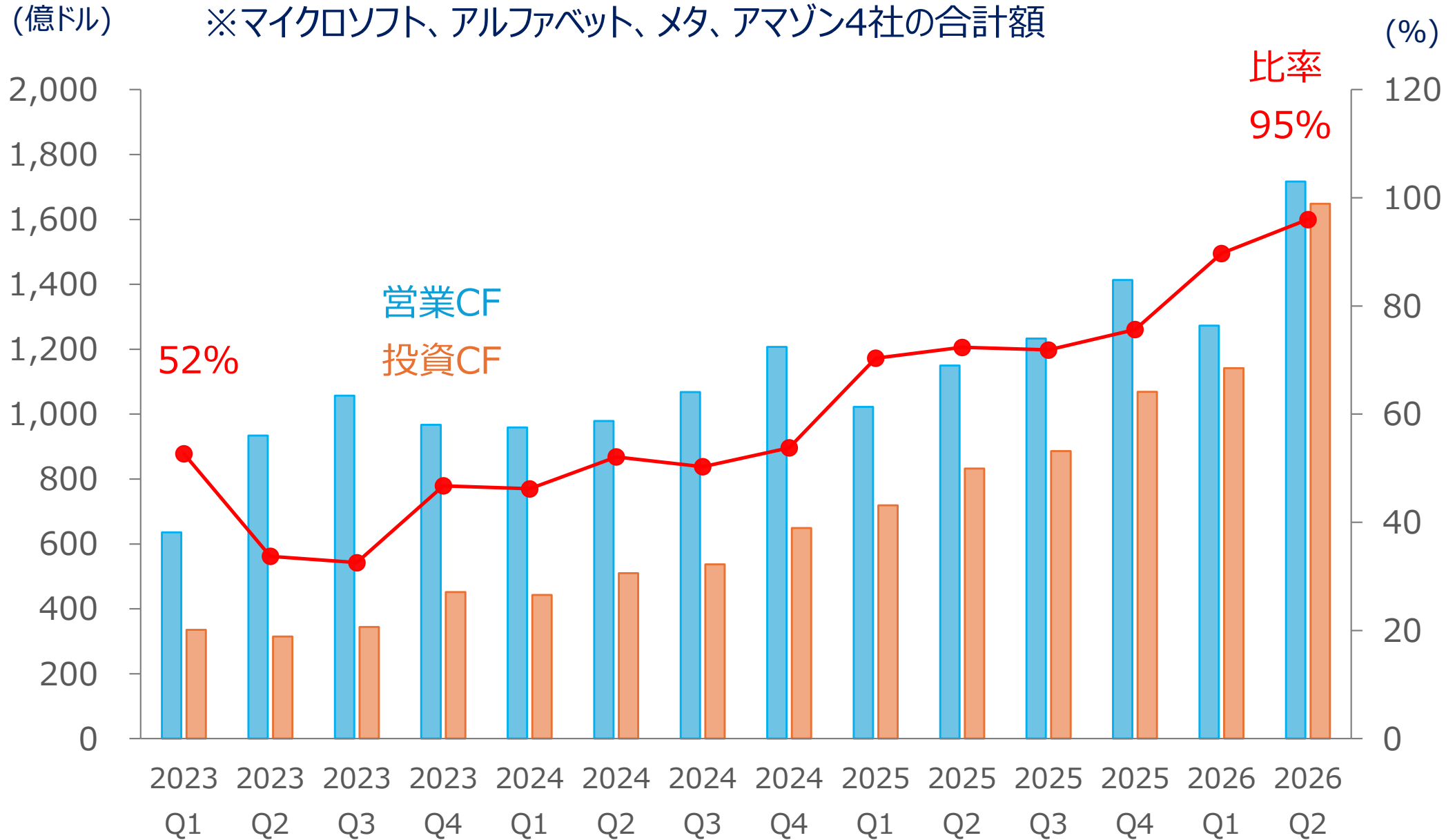
過去の大相場	当時の米名目GDP	累積投資額 25%規模	その後の展開
鉄道網拡大局面 (1860年～70年代)	約100億ドル	約25億ドル	1837年恐慌
電力網・電化ブーム (1920年代)	約1,040億ドル	約261億ドル	1929年 世界恐慌
ITバブル (1990年代後半)	約6.0兆ドル	約1.5ドル	2000年 ITバブル崩壊
AI相場 (2022年～)	約30兆～32兆ドル	7.5兆～8.0兆ドル	？

■ 主要ハイパースケーラー4社の設備投資額(Capex)推移

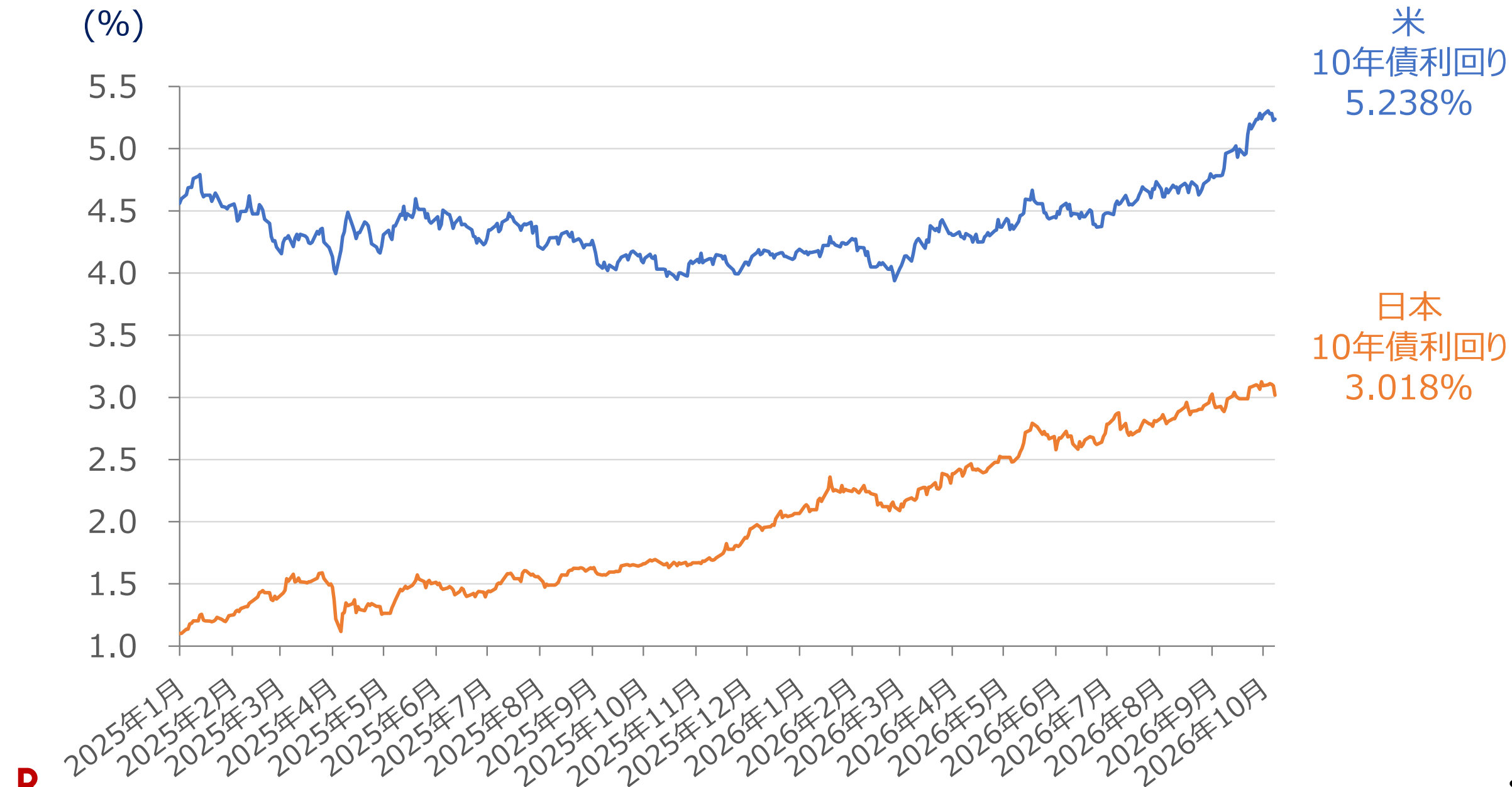
※各社開示のキャッシュフロー計算書（有形固定資産の取得等）に基づく数値

社名	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年(予)
アマゾン.com (AMZN)	636億ドル	527億ドル	830億ドル	1,318億ドル	2,200億ドル
マイクロソフト (MSFT)	239億ドル	218億ドル	445億ドル	646億ドル	1,750億ドル
アルファベット (GOOG)	315億ドル	323億ドル	525億ドル	914億ドル	2,050億ドル
メタ (META)	314億ドル	281億ドル	385億ドル	750億ドル	1,450億ドル
合計	1,504億ドル	1,349億ドル	2,185億ドル	3,628億ドル	7,450億ドル

■ハイパースケーラーのCF(キャッシュフロー)の状況



■ 日米の10年債利回り(日足)の推移 2026/10/9時点



■ 米国債と社債の利回り格差(スプレッド)の推移 2026/10/12時点

